

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	23	大学等名	共愛学園前橋国際大学
テーマ	テーマ I・II 複合型		

【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・今までの補助事業による取組や日常的な活動を通じて、入口と出口におけるステークホルダーとの協力関係や、その意見を生かした教育改善が進められてきた。アクティブ・ラーニングの授業方法（AL、SL、PBL）と学修成果指標（共愛 12 の力）の明確化を出発点として、コモンルーブリックや e ポートフォリオ、あるいはピアサポートシステム等が発展的に展開し、大学全体の改革が好循環し、加速されているものと評価できる。
- ・目標に対する達成度はおしなべて順調と認められ、項目によっては平成 31 年度の目標値を既に上回っているものもあることは評価できる。
- ・教員の動機付けについては、「評価等の外発的動機付けではなく、学生の学びに有効な教育実践という内発的動機付け」によってきているということで、持続的で優れた教員文化を醸成していく上で高く評価できる。また、学修質保証システムの構築プロセスにおいて、アクティブ・ラーニングの担い手たる教員の授業改善のための「Good Practice」作成も時宜を得た取組と評価できる。
- ・学内の実施体制については、フラットな学長中心の教職一体教学マネジメントの下に合理的に機能していると評価できる。
- ・本大学の教育改善に向けた取組や FD・SD は、従前から意欲的かつ優れたものであると評価できる。また、学内体制も無理なく構築されているので、補助期間終了後の事業継続に特段の懸念は見当たらない。

<改善を要する点>

- ・事業成果の普及については、学会等での発表やポスターセッション等の活用も検討してはどうか。また、e ポートフォリオは企業と共同開発したとのことであるが、著作権等の権利関係や企業の営利活動の中での位置付けなどはどのように取り決められているのか明示することが必要である。